

第3学年 国語科学習指導案

日時 平成26年11月10日(月)5校時
学級 3年B組(男子22名、女子14名)
授業者 教諭 佐藤 充

1 単元名 「論語」

2 単元について

3学年の古典の教材は「古今和歌集 仮名序」「万葉集・古今和歌集・新古今和歌集)」「おくのほそ道」である。本授業で扱う「論語」は「7 未来に向かって」の中で取り上げられているが、生徒の学習の流れを考え、古典の教材に続けて同じ時期に学習することとした。

古典の学習に関して指導要領では、3学年「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のア(ア)で、「歴史的な背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと」としている。授業では、1学年「今に生きる言葉」で「故事成語(書き下し文)と漢文の基礎」を、2学年「漢詩の風景」で「漢詩」を学習している。しかし、古典の学習、特に漢文については、年間数時間の授業以外に日常生活の中で触れる機会はほとんどないため、漢文の基礎的事項の定着は不十分になりがちである。

そこで、本単元の学習の中で、漢文についての興味を持たせながら、まず漢文の基礎的内容をしっかりと定着させたい。その上で、音読を通して漢文のリズムを感じ取らせるとともに、意味を推察させながら中国から学ぼうとした先人の工夫について学ばせたい。また、日本の生活の中に根づいている儒学の考え方についても味わわせたいと考えている。

3 生徒について

授業ではほとんどの生徒がまじめに取り組んでいるが、自ら積極的に発言しようとする生徒は多くない。また、基礎的な内容の理解が不十分なために、国語を苦手と考えている生徒も何名かいる。そのため、1学期には授業の始めに基礎的な内容の自己採点テストを行い、基礎の定着を図った。

漢文については、1学期に確認したところ、返り点や送りがない、訓読文と書き下し文の書き換えなどの基礎的事項を理解していたのは半数に満たなかった。小テストを通して内容が定着した生徒は増えたが、まだ十分とは言えない状況である。また、古典に対する苦手意識も見られる。

そこで、中国語としての漢文を日本語として読み取ろうとした歴史や工夫などを学ぶことを通して漢文への興味や親しみをもちたい。

4 単元の指導目標

- (1) 自分の考えを進んで発表しようとしている。【国語への関心・意欲・態度】
- (2) 訓読文を書き下し文にし、おおよその内容を理解させる。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(ア)】
- (3) 孔子の考えが現代に生きていることを理解させる。【読むこと エ】

5 単元の評価規準

観点 単元	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
「論語」	自分の考えを進んで発表しようとしている。	孔子の考えが現代に生きていることがわかる。	書き下し文のおおよその内容が理解できる。

6 単元の指導と評価計画

時	指導内容	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
第1時	漢文についての既習事項の確認・理解			漢文の基礎的な事項がわかる。
第2時	教科書の「論語」の内容の理解	自分の考えを進んで発表しようとしている。		訓読文を書き下し文にすることができる。
第3時(本時)	教科書以外の「論語」の内容の理解①			書き下し文のおおよその内容がわかる。
第4時	教科書以外の「論語」の内容の理解②	自分の考えを進んで発表しようとしている。		書き下し文のおおよその内容がわかる。
第5時	現代に生きる「論語」の考え方についての理解	自分の考えを進んで発表しようとしている。	孔子の考えが現代に生きていることがわかる。	

7 本時の構想

(1) 本時の目標

- ・ 訓読文を書き下し文にし、おおよその内容を理解することができる。

(2) 研究に関わって

視点1 「単元及び1時間単位の指導目標（到達目標）を明確にした指導の工夫」について

- ・ 自分の力で訓読文を書き下し文に書き換え、おおよその内容を読み取れる力をつけさせる。

視点2 「学ぶ意欲を喚起する学習課題の工夫」について

- ・ 教科書以外の「論語」の言葉を課題とすることによって、既習事項を使いながら自分の力で読もうという意欲を喚起する。

視点3 「学習課題に即した言語活動の工夫」について

- ・ 個々で課題に取り組んだ後、自分の考えと他の生徒の考えを比較検討する場面を設定した。

視点4 「次時へ意欲をつなぐ、ふり返りの場の設定」について

- ・ 授業の終わりに「学習チェックシート」で自己の学習を評価させ、成果と課題を明らかにさせるとともに、次時の内容を確認させて学習の見通しを持たせる。

(3) 本時の評価

具体的評価規準 評価の観点	A：十分に満足できる	B：概ね満足できる	Cの生徒への手立て
言語についての 知識・理解・技能	訓点を理解し、訓読文を書き下し文に書き換えることができる。	訓点到注意しながら訓読文を書き下し文に書き換えることができる。	返り点の働きを確認させる。 訓読文の漢字に、読む順に番号をつけさせる。
	漢字の意味を推測しながら、書き下し文の内容を理解することができる。	意味を調べ、書き下し文のおおよその内容を理解することができる。	辞書から本文にあった意味を見つけさせる。

(4) 本時の展開

	学習内容	学習活動	形態	指導上の留意点(・) 評価(○)
導入 8分	<ul style="list-style-type: none"> 確認テスト 学習課題の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 漢文の基礎的事項を確認する。 「学習チェックシート」を確認する。 	個	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 視点1 「学習チェックシート」で学習内容を確認させる。 </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> 課題 自分たちの力で「論語」を読み、意味を読み取ろう。 </div>				
展開 34分	<ul style="list-style-type: none"> 課題への意欲化 	<ul style="list-style-type: none"> 白文で課題の言葉を確認する。 	一斉	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 視点2 先人の工夫を思い起こさせて意欲化を図る。 </div>
	<ul style="list-style-type: none"> 課題の追求① 「書き下し文に書き換える」 	<ul style="list-style-type: none"> 書き下し文に書き換え、音読する。 隣同士で確認する。 全体で確認する。 	個 ペア	<ul style="list-style-type: none"> 学習プリントに記入させる。 「置き字」に注意させる。 遅れがちな生徒には手順を確認させる。 ○訓点を理解しているか。
	<ul style="list-style-type: none"> 課題の追求② 「意味を考える」 	<ul style="list-style-type: none"> 書き下し文の意味を考える。 隣同士で確認する。 	個 ペア	<ul style="list-style-type: none"> 辞書を使って意味を考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 視点3 自分の考えと他の生徒の考えを比較し、考えを深めさせる。 </div>
	<ul style="list-style-type: none"> 課題の追求③ 「自分の選んだ言葉に挑戦する」 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の中から選んだ訓読文を書き下し文に書き換え、意味を考える。 全体で確認する。 	個 一斉	○意味がわかったか。 <ul style="list-style-type: none"> 学習プリントに記入させる。 できるだけ多くの課題に取り組みさせる。
終末 8分	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価 次時の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の学習を振り返り、「学習チェックシート」に記入する。 「学習チェックシート」で確認する 		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 視点4 「学習チェックシート」で学習を振り返らせる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 次時の内容がわかったか。

